

不知森の殺人

浅見光彦シリーズ番外

和久井清水・著

文庫判: 336ページ

出版社: 光文社

発売日: 2024年6月11日



〈あらすじ〉

時は明治。浅見元彦は、高知の緒智村で事件に関わったこと（シリーズ第1弾『平家谷殺人事件』参照）をきっかけに探偵としていくつかの依頼をこなすようになっていた。

そんな元彦に、下宿の主人の娘であるおスミが「神隠しにあった友人を探してほしい」と依頼を持ちかける。

友人の内田紫堂と共に行徳町へと捜査に向かった元彦だったが、「神隠し」の手掛かりを握る人物が彼らと会った日の夜、「入ったら出られなくなる」と伝えられる不知森で殺害されてしまった。

二つの事件は森の祟りなのか？ 元彦と紫堂の名コンビが辿り着く真相とは？

〈登場人物〉

浅見元彦（あさみ もとひこ） …… 主人公。24歳。無職。東京法学院卒業。代言人を目指していたが試験に落ちた。煉瓦町に下宿中。

内田紫堂（うちだ しどう） …… 元彦の友人。24歳。帝国大学に籍を置き文士を目指している。実家は江戸時代から続く信州の名家。

浅見陽山（あさみ ようざん） …… 元彦の兄。38歳。内務省警保局長。浅見光彦の曾祖父にあたる。

お雪（ゆき） …… 元彦の下宿先の女主人。越後出身。若い頃、浅見家で女中をしていた。

おスミ …… お雪の一人娘。17歳。お雪と共に元彦を「坊っちゃん」と呼ぶ。

〈著者略歴〉

北海道生まれ。北海道在住。第61回江戸川乱歩賞候補。2015年宮畑ミステリー大賞特別賞受賞。内田康夫の意志を継いだ『孤道』完結プロジェクトの最優秀賞を受賞し、『孤道 完結編 金色の眠り』で作家デビュー。著書に『平家谷殺人事件』、『水際のメモット』、『かなりあ堂迷鳥草子』、『かなりあ堂迷鳥草子2 盗密』、『かなりあ堂迷鳥草子3 夏時』などがある。